

くわどり湯ったり村などの新指定管理者決まる

臨時議会が23日、開かれました。議案は3つで、くわどり湯ったり村及びゆったりの家、並びにヨーデル金谷の新たな指定管理者を本年6月1日から指定するためのもの、および関連予算です。いずれの議案も全会一致で可決しました。

このうち、くわどり湯ったり村、ゆったりの家、指定管理者については、市内から2社、市外から1社応募があり、選定委員会で審査した結果、長野市のオーガニックリゾートホールディングス株式会社ということになったので、同社を指定するというものです。指定の期間は令和5年6月1日から令和7年3月31日までの1年10か月です。ヨーデル金谷（左のイラスト）につ

いては、公募は行わず、当該施設の同従業員が新たに設立した株式会社、株式会社ミナーナハライペ（「みんな腹いっぱい」という意味）を指定管理者に指定するというもので、湯ったり村などと同じ期間の指定です。

今議会の議案審査の中心舞台は文教経済常任委員会でした。

委員会では、「湯ったり村の課題は何か」「選定委員会での審査項目の点数配分の根拠と理由を聞きたい」「選定委員会では、第一順位となった企業について、サービス向上で他の人よりもぐんと低い点を入れた委員があるが、何か理由があったのか」「公募の前にお風呂などの工事をしているが、指定管理者が決まってからのほうがよかったのでは」「指定管理期間が終



【クロモジ】クスノキ科の落葉低木。漢字で「黒文字」と書きます。高級な楊枝（ようじ）の材料です。葉だけでなく、樹皮や木の本体から芳香が出ています。花期は3月から4月。葉が始めるころ、淡い黄緑色の花を咲かせます。花言葉は「誠実で控えめ」。写真は、5月18日、吉川区の尾神岳にて撮影しました。

わってからどうする予定か」「市内に応募者があった場合、地元優先ということがあってもよかったですのではないかと」「提案には地元との連携について具体的な記述が見当たらないがどうなっているか」「桑取町内会長会議（組織）など地元団体との定期的な協議をする計画はあるか」などの質問が相次ぎました。

これらに対して市側は、「課題としては、コンプライアンス（法令順守）などがある」「『適切な管理』『サービスの向上』などの3要素に20点配分

独自の発想、次々展開 NANOBRANDの高橋さんが講演



議員勉強会で三条市のNANOBRAND合同会社CEO 高橋憲示さんの講演を聴きました。高橋さんは「全員が主役となる『さざれ石のまちづくり』」と題して講演、空き家対策やフードロス、移住促進などについて、これまで聴いたことのない独自の発想で具体的な提案を次々で行いました。何事もコピーではダメ、オリジナルでないといけない。「らしさ」に基づいた事業の構築が求められている、などという主張はなるほどと思うものがたくさんありました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2111 2023.5.28

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七五八回 消えた文字(2)

五〇年ほど前、いまは亡き弟が吉川区蜷場のケヤキの幹に彫ったという文字は木のどこにあったのか……ここ数か月、ずっと気になっていました。

そのことを一番よく知っていたのは蜷場出身のHさんでした。だから、Hさんが帰省したときは、しっかり教えてもらおうと決めていました。

先日の木曜日でした。Hさんからラインによる知らせが届いたのは。そこには、「いま、蜷場です。文字の跡形ないです」とありました。

知らせを受け取ったのは、ちょうど大島区にいた時です。文字の跡形がなくとも、あったときはケヤキのどこの辺にあったのか、どれくらいの高さだったのか、それだけでも知りたい。そう思った私は、「これから尾神岳を越えて蜷場に向かいます」と返信しました。

蜷場に私が着いたのは午後五時を回っていました。草取りをしていたHさんは、私の車に気づくと、すぐにケヤキの木のところへ案内してくれました。

ケヤキは蜷場の中心部にある小さな建物(倶楽部と呼んでいます)のすぐそばに二本あります。Hさんは、かつて道があったところまで下がって、ケヤキを眺めた後、現在の市道に近い方のケヤキのそばに行き、「ここらあたりにあったと思うんですよ」と木の肌に左手をあてて教えてくれました。高さは地面から一メートルほどです。ところどころ、皮がはがれたり、変色したりしていました。でも、文字らしいものは、やはり見当たらずでした。

Hさんは、「五一年前のことだからねえ。幹の太さは、当時はもっと細かったし、それがどんどん太くなるに従い、消えてしまったんでしょね」と言いました。私としては、文字の手がかりがあればうれしいなと思っていましたが、それも見つ

けることはできませんでした。でも、弟が彫ったという文字が木のどれくらいの高さにあったのか、木のどこらへんの面だったかは分かりました。それを知っただけでも弟を感じる事ができました。

二人で改めてケヤキの木を見て、太さや高さなどを再確認しました。太さは両手を回しても届かないくらい太くなっていました。そして目を上に向けると、二月の時点では気づきませんでした。木の高さは予想以上でした。倶楽部の屋根をはるかに超え、屋根を覆(おお)うように枝を広げていたのです。

東北電力からケヤキの枝が電線や電話線の邪魔になっているという指摘があり、Hさんは木を切ることを検討しているとのことでした。実際、重い雪が降った場合、枝が電線や屋根などを傷めてしまう可能性は十分あります。弟の文字が彫られた木なので、できれば残してほしいという思いはあります。被害が出てからでは遅すぎます。やむを得ないなと思いました。

再確認後、ケヤキの木をそばからHさんの実家の庭まで行き、話を続けました。

家の西側には池が二つあります。そのうちの一つには大きな鯉が二匹泳いでいました。これらの鯉は二〇一五年頃からいたとのことですが、昨年の暮れからはエサをくれる人がいなくなりました。いったい何を食べていたのでしょうか。「よく生き延びてくれたね」と二人して喜び合いました。

池には裏山から引いている水が絶えず流れ落ちています。その水の音を聞いていると、何となく安らぎを感じました。

池の水の音から蜷場の川にある堰堤の流れの音について話しているとき、Hさんが突然、「マコちゃんには芸術家になればよかったのに……」と言いました。亡き弟が絵も字も上手だったという話をしてくれた人はこれで二人目、うれしくなりました。

書院造りの懐徳亭から見る景色が見事

頸城区百間町にある名家、瀧本邸を14日、見えました。市内で公開されている名家のなかで、唯一、訪れたことがありませんでした。

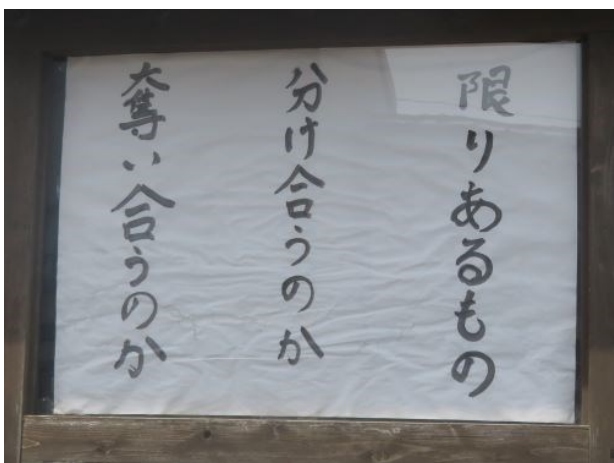
瀧本邸の主屋は現存していませんが、1913年に建てたという書院造りの懐徳亭(写真)や茶室などが残っています。懐徳亭では欄間や池の見える風景が素敵でした。池泉回遊式庭園も広大で、落ち着きのある、いい空間となっていました。特に橋を渡って、東屋や茶



室に至る所が最高でした。でも、維持管理するのが大変ですね。

門の近くにナツまたはフユボダイジュの木があり、花のつぼみを見ることができました。これは、もうひと月くらいで開花するはず。そのときはもう一度訪ねて、撮影してきたいと思っています。

直江津は三八市の通りにある真宗大谷派寺院、聴信寺の掲示板です。限りあるもの 分け合うのか 奪い合うのか。政治の世界でも人間の暮らしでも問われる大事なことです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 5月17日(水) | 5月24日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.053 | 0.050 |
| 上越北消防署 | 0.047 | 0.050 |
| 新井消防署 | 0.043 | 0.053 |
| 頸北消防署 | 0.050 | 0.040 |
| 頸南消防署 | 0.067 | 0.067 |
| 東頸消防署 | 0.040 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.060 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.050 | 0.053 |